

少年の主張県大会優秀賞受賞

8月19日、中之条町ツインプラザにおいて、平成26年度少年の主張吾妻地区大会が開催されました。郡内中学校の代表が集まり、それぞれが自分の思いを主張しました。

本村からは、3年生の松井美結さんが「日本の未来は、自分の未来」と題して、素晴らしい発表をしてくれ、高山村では初となる最優秀賞を受賞されました。また、9月20日に行われた県大会では、みごと優秀賞を受賞されました。おめでとございませう。作品をここに紹介します。

(少年の主張 吾妻地区大会最優秀賞受賞 群馬県大会優秀賞受賞)
日本の未来は、自分の未来

高山中学校 3年 松井 美結



皆さんは、憲法第九条を知っていますか？そこには、日本は戦争を放棄し、戦力を持たず、交戦権を認めないと書かれています。それなのに、私たちの住む日本は、自衛隊を持っています。なぜだか、

考えたことはありませんか。私は、先日社会科の授業で平和主義について勉強したのをきっかけに、このことに興味を持ちました。

社会科の教科書を読むと、政府が自衛隊を認める理由として「憲法は自衛のための必要最小限度の実力を持つことは禁止していない」と書かれています。私はこの文を読んだ時、「必要最小限」ってなんだろう、どこまでを「必要最小限」というのだろう、と思いました。

少し前ニュースで、政府が集団的自衛権を行使できることに憲法の解釈を変えたという報道を見ました。私は最初、これがどういうことなのかさっぱりわかりませんでした。気になって親に聞いてみると、今までの日本は直接日本が攻撃された時のみ軍事力を行使できるといふことになっていたが、日

本と親しい関係にある国が攻撃された時も軍事力を行使できるように憲法の解釈が変わったということだと教えてくれました。今までは自衛のためだけにしか軍事力を行使できなかったのに、自分の国を守るという目的以外でも軍事力を行使できるようにしてしまつたというのには、ある意味、「必要最小限」の域が広がったのではないかと思いました。もしかしたら、将来「必要最小限」と言つて戦争をする日が来ってしまうのではないかと不安も覚えました。

私は「解釈」という言葉も不思議に思いました。私たちの周りには、いろいろなきまりがあります。学級のきまり、学校のきまり。家族の中のきまりがある人も、いるでしょうか。それらは、日々の生活を安心して、気持ちよく、円滑に行うために作られています。それを「解釈」というもので、できるところでできないことを変えてしまふことがあるでしょうか。

そんなことを考えていて、私はふと思いました。「憲法って何なんだろう」と。教科書には、憲法が国を支配していて、いかなる権力者もそれに従わなければならない、ということが書かれていました。それなのに、政府が「解釈」を変えられることで、やつていいことが変わってしまうなんて、そんなことが許されるのでしょうか。そんな憲法って、意味があるのでしょうか。私は、憲法とは、ちゃんと従わなければならない大切なきまりだと思えます。もし憲法が今の社会に

合っていないのなら、誰にでも納得される憲法に改正すべきじゃないでしょうか。憲法改正には、国民投票で過半数の賛成が得られなければならない。国民投票を行つて国民の意見が反映された憲法なら、納得できると思います。

私はまだ中学生です。政治の難しいことはよくわかりません。でも、憲法は「解釈」「必要最小限」という曖昧な言葉で内容が変わつて良いものとは思えないのです。私は、今が憲法について興味を持ち、その重要性を確認すべき時なんじゃないかと思えます。今後もし「解釈」の言葉の下に私たちの意見が反映されることなく憲法の内容が変わつていったら、日本の平和は崩れてしまふかもしれません。

社会科で平和学習をした日から、私は自分の未来に不安を感じるようになってきました。憲法を、自分とは関係のない話だと思つてはいけません。ニュースを見て、「なんだか難しい話をしていいるなあ」で終わらせてはいけません。わからないことは、身近な人に聞いてみたり調べてみたりして、憲法について一人ひとりが考えることが大切なことだと思います。若者として社会に目を向け、世界に目を向けて、今を知り、話し合い、少しでも明るい未来の創造に関わろうとすること。決して大人任せ、人任せにしないこと。それが大切だと思います。私も日本の一国民として、この先日本がどんな未来に進んでいくのか関心を持つていたいと思います。

地域づくりインターンの会来村

8月5日から2週間、地域づくりインターンの会の学生さん4名が、高山村に来村されていました。

地域づくりインターンの会とは、都市部の学生と農山村地域の人々を結びつけ作りを目的としており、主に首都圏に住む学生が地域に滞在し、地域の人々とともに地域づくり活動に取り組むプログラムです。

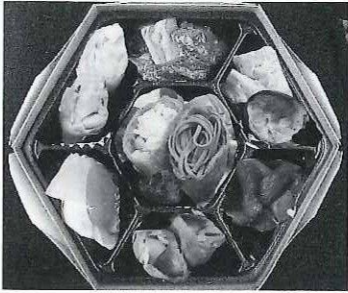
高山村の受け入れは4年目で、過去に16名の学生さんが来村し、活動終了後も応援団員となり、村へ遊びに来てくれています。

今回は、農作業や特産品づくり体験、ふるさと祭りのお手伝いをして頂きました。また、今年4月にオープンした道の駅の活性化の為、道の駅の駅弁づくりにも取り組んでもらい、若者の柔軟な考えで、高山村の特産品をふんだんに使った「高山村おこっつお弁当」が完成しました。現在、商品化を目指しているところです。

最終日には村役場にて活動報告会を行い、これまでの活動内容や感じたこと、提言などをして頂きました。活動を終えての村の感想として、人のつながりが濃い、村民の方が村に誇りを持っている、よそ者を温かく迎えてくれる優しさがあるなどが挙げられ、その魅力を継続するために、10αのことが必要と提言して頂きました。

10αの内容としては、農業体験等の田舎の魅力を実際に触れることが出来る機会を可能な限り増やす、村民を対象としたヒアリング調査を行うこと等が挙げられました。

2週間という長い期間、大変お疲れ様でした。事業にご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



8/18~22

若葉のふるさと協力隊

8月18日から22日までの5日間、6名(うち男子2名、女子4名)の学生や社会人が来村し、農作業やこんにやく作り、高齢者宅訪問などを体験しました。若葉のふるさと協力隊とは、現役の緑のふるさと協力隊がコーディネーターになり、様々な体験を通して高山村の魅力を伝えるプログラムです。

参加の理由は初めて訪れる場所での農業体験や地域の人々との交流がしたい、高山村の現状を知りたいなど様々でした。農業の経験が初めてという人ばかりでしたが、皆一生懸命作業に取り組んでおり、それぞれ得たものがあつたようです。

21日に役場で行われた報告会では、村に来て感じたことや気づいたこと、問題点などをお話してもらいました。村の感想として、「たかやま」の「あいうえお作文」を作ってくれました。

たかやまの「あいうえお作文」がそくのおいしくて、かそくによつて、また来たい。

また実際に農作業をしてみても、今までスーパーで買っていた野菜などの作物を作る方々の大変さを学んで、これからは感謝して買いたいという意見もありました。

今回の短期プログラムにご協力頂いた農家さんを始めとする村民の方々、本当にありがとうございました。



善意のお気持ちに感謝いたします

去る9月13日(土)東地区広場に於いて、チャリティーゲートボール大会が開催されました。

大会にご参加された皆様より尊い寄付金が寄せられました。

福祉に対するあたたかい善意のお気持ちに感謝申しあげ、地域福祉活動事業に有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

○募金額 47,650円

9月号の「むらのわだい」の中で「新田宿復活祭での「こども山車」お囃子手の募集について」の中で、新田宿復活祭の予定を11月9日としていましたが、高山村文化祭の行事と重なったため日程が11月16日に変更になりました。

8/14 子ども釣り教室

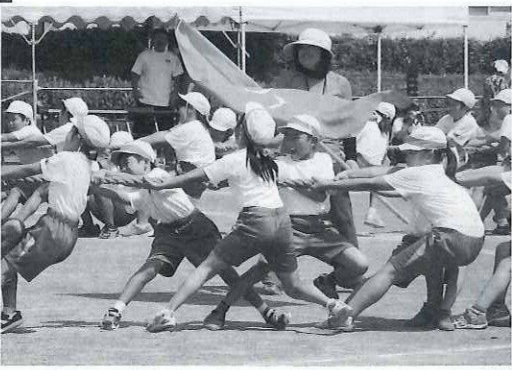
8月14日に高山村漁交会では、川の生き物への興味を深め、釣りのマナーと楽しさを学ぶとともに身近な自然環境に関心をもち、高山小学校隣の五領川で「子ども釣り教室」を開催しました。

当日は過ごしやすい天候にも恵まれ、集まった約60名の小学生は、漁交会の役員さんと監視員さんの指導のもと、川に放流されたマスを真剣な表情で狙っていました。魚釣り後はつかみ取りも体験し、夏休みの楽しい思い出にっていました。



9/6 小学校大運動会

当日は天候が心配されましたが、生徒達の願いが叶い、みんなで力を合わせて楽しい運動会ができました。



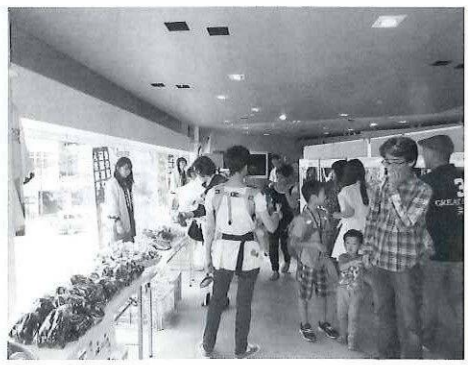
8/30 銀座ぐんまちゃん家で高山村PR

8月30日(土)、31日(日)の2日間、東京銀座にあるアンテナショップぐんまちゃん家で高山村のPRを兼ねて村の新鮮野菜販売とぐんま文台の紹介を行いました。ふらつと立ち寄ったという方や、群馬出身だから来てみたという方、さまざまなお越し頂きました。

野菜販売では、甘いトウモロコシやなす、トマト、みょうが等の夏野菜を出品しました。皆さん、お野菜の安さとおいしさに驚かれています。スーパーで販売されているお野菜が高価な今、あつという間に殆どの品物が売り切れてしまいました。

また地中海地方産の赤いカブのような野菜「ピーツ」や、ほっちゃんかぼちゃ、高山産蕎麦の乾麺が、大好評のジャンボにんにくに加え、1階の常設販売コーナーで販売して頂けることになりました。

東京へお越しの際は是非ぐんまちゃん家へお立ち寄りください。



8/24
神の舞い
役原獅子舞

8月24日に役原地区、諏訪神社で獅子舞の祭典が行われました。「役原獅子舞」は関東でよく見られる一人で踊る激しい獅子舞とは大きく違い、6名の子どもがゆったりとした舞いを披露する、高山村を代表する祭典です。

頭（かしら）を始め、神主、笛、ささら、舞子が諏訪神社まで練り歩く姿は、田園風景と一体となり、厳かでとても美しいものです。

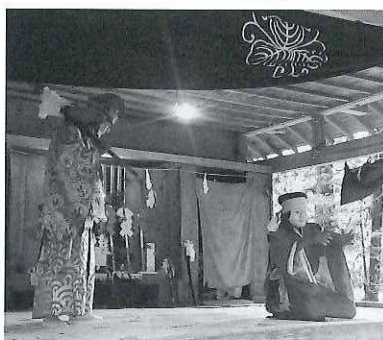
昔の子どもたちはみんな獅子舞に出たくて、練習が始まる時期になると競争や喧嘩が繰り広げられたそうですが、現在では役原地区も年々子どもが減っており、今年は高校生が舞子を務めてくれました。一庭50分、二庭40分の長丁場の舞台です。「無病息災」「氏子安泰」「五穀豊穡」、様々な願いが込められ、室町時代から約600年以上も続いて来たという「役原獅子舞」。若人が初秋に舞う姿をずっと残していきたいものです。



9/15 尻高神社



9/15 三島神社



9/1 中山神社



秋の神社祭典

9/11
食育推進事業
村内統一献立の提供

9月11日(木)に村内統一献立を実施しました。今年は「野菜を1日350g以上摂取しよう」「塩分のとりすぎに気をつけよう」「村の農産物を旬に食べよう」を3つのポイントとして掲げ、村内各施設の栄養士が集まって考えた、地元野菜たっぷり、バランスのとれた食事を提供しました。また、一般の方には「野菜の魅力を知ろう」と題して健康講座を開催しました。

本事業においてご協力いただきました生産者の方、及び食生活改善推進員、その他関係機関の皆様大変ありがとうございました。

***統一献立の提供施設の紹介**
吾妻養護老人ホーム、りんどりの里、高山村デイサービスセンター、高山保育所、高山幼稚園、高山小学校、高山中学校、一般の方は「いぶき会館」「なごみ」



親子でおいしいね



しっかり自分で食べてます



木村先生の講演